

東京医療学院大学  
学修成果アセスメント・ポリシー  
(学修成果の評価の方針)

本学では、学生の学修成果について、アドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）の3つのポリシーに照らして、下記のとおり検証を行う。

I. 大学（機関）レベル

ディプロマ・ポリシーの到達度の評価基準の『観点』を次のように定める。尚、各項目の①は到達段階とし、①から④へと順に達成するものとする。

1. 人についての幅広い知識と理解を持ち、生命を尊ぶことができる。
  - ① 人体の構造としくみを説明できる。宗教、哲学、死生学、法学、医学などの幅広い側面から生命倫理について自身の考えを述べられる。
  - ② 疾病を理解し、運動機能の回復あるいは生活の自立などへ応用するための基礎知識を説明できる。
  - ③ 各専門の学問を発展させて統合し、治療あるいは生活支援の科学的根拠を説明できる。
  - ④ 対象者に尊厳をもって接し、学修した知識を活かした取り組みができる。
2. 人を全人的に捉え、優しく寄り添うことができる。
  - ① 人及び疾病や障害を抱える者の心理について推察し、ロールプレイで対応することができる。
  - ② 臨床・臨地における見学体験を通して対象者にふさわしい対応をとることができる。
  - ③ 対象者の日常生活活動の困難さを理解し、基本的な支援ができる。
  - ④ 対象者の立場をプラスの側面を含めて理解し、指導者のもとで社会復帰あるいはその人らしい生活の構築に向けた支援ができる。
3. 多様な社会を理解し、保健医療福祉活動に貢献することができる。
  - ① ボランティア活動あるいはフィールドワークを通して地域の様々な人との交流できる。
  - ② 地域における施設の役割や機能を理解し、実現可能な役割を見つけることができる。
  - ③ 対象者を生活者としてとらえ、自身が目指す専門職の包括的な在り方を説明できる。
  - ④ 自身が目指す専門職の地域における意義を理解し、実践できる。
4. 地域の保健医療福祉の現状を知り、課題を見出すことで支援の必要性を理解し、取り組むことができる。
  - ① 地域の保健・医療・福祉行政の現状と問題点について説明できる。
  - ② 個人及び集団の疾病の原因になる生活・社会・自然環境因子について説明できる。
  - ③ 日本の医療及び福祉制度史を踏まえて、医療保険や介護保険制度の意義について説明できる。
  - ④ 専門職として地域で働くイメージを持ち、実現可能性を勘案したうえで具体的に説明できる。
5. 専門職として社会に貢献できる協調性とコミュニケーション能力がある。
  - ① 他者との良好なコミュニケーションを図ることができる。

- ② 臨床・臨地における見学体験を通して他職種や対象者との良好なコミュニケーションを図ることができる。
  - ③ 多職種と連携し、専門職としての支援の在り方を説明できる。
  - ④ 多職種と連携し、専門職としての支援に取り組むことができる。
6. 専門職として社会に貢献するために生涯にわたり学修し自己研鑽することができる。
- ① スタディスキル及びチュードントスキルを身につけ実践できる。
  - ② 学生同士で協働する学修スキルを身につけ実践できる。
  - ③ 臨床実習・臨地実習における指導者の指導の下で対象者への支援を通して学修するスキルを身につけ実践できる。
  - ④ 生涯にわたり学修し自己研鑽するスキルを身につけ取り組むことができる。

ディプロマ・ポリシーの到達度の評価基準の『尺度』を次のように定める。

- (ア) 上記の観点について、入学時、在学時（2年次末）、卒業時に実施する『3 ポリシーに関する学生アンケート』において、“現在あなた自身にあてはまると思うか？：あてはまる、どちらかというにあてはまる、どちらかと言えばあてはまらない、あてはまらない”の4段階にて測定する（学生の主観的な尺度）。【別添1】
- (イ) 上記の観点に該当する、学科・専攻の各科目【別添2、3】の成績：年度毎のGPA：2.3未満、2.3以上3未満、3以上の3段階にて測定する（教員による客観的な尺度）。尚、GPAを算出するにあたり必要な成績の正規化は、「Ⅲ. 科目レベル」で記載の通りとする。

カリキュラム・ポリシーに関する評価は、在学時（2年次末）、卒業時に実施する『3 ポリシーに関する学生アンケート』において、本学のカリキュラムに「あてはまる」「どちらかと言うにあてはまる」「どちらかと言えばあてはまらない」「あてはまらない（あるいは、わからない）」の4段階にて測定する（学生の主観的な尺度）。【別添1】

アドミッション・ポリシーに関する評価は、入学時に実施する『3 ポリシーに関する学生アンケート』において、本学を受験する際にアドミッション・ポリシーを、どの程度意識をしていたかについて「大いに意識していた」「意識していた」「あまり意識していなかった」「まったく意識していなかった」の4段階にて測定する（学生の主観的な尺度）。【別添1】

この他、4年卒業率、退学率、就職率、授業アンケート、意見箱、国家試験模試など外部模試の成績、臨床実習施設での評価、国家試験合格率、卒業生アンケート、就職先アンケートを、到達度の測定に活用する。

## II. 学部・学科・専攻（教育課程）レベル

大学（機関）レベルで収集された測定値を教育課程毎に集計して測定する。

### III. 科目レベル

科目ごとの学生の学修成果については、シラバスに定める「学修評価の基準と方法」に基づき、「学修目標」に掲げる知識、能力の到達度を測定する。

到達度は、科目全体（履修登録者の平均）ならびに学生個人ともに、GPA：2.3 未満、2.3 以上 3 未満、3 以上の 3 段階にて測定する。

GPA を算出するにあたって、成績を次のように正規化する。

- ① 多様な学生への対応を考慮し、各科目の授業は、基礎、標準：国家試験合格レベル、発展の 3 レベルを意識して組み立てる。
- ② 授業の時間配分から成績を考える場合、1 コマ 90 分の中で A 及び“B：国家試験合格レベル”の時間を 70 分設け、その中の 8 割：55 分程度が理解できたら C。上乘せ 20 分が理解できたら S と判定する。
- ③ あるいは、授業全体の 8 割の理解ができると A あるいは“B：国家試験合格レベル”とし、授業全体の 6 割を理解できれば C と判定する。

各科目の担当教員は、学生がディプロマ・ポリシーを意識した学修を進めることができるように、その科目が重点的に対応しているディプロマ・ポリシーについて、学生が科目の中でどのようなステップで、そのディプロマ・ポリシーの内容に到達するか（段階的な到達度の基準、対応する DP における当該科目の位置づけ）を明示する。

尚、こうした到達度の評価結果に基づき、大学全体、学科・専攻、科目担当がリンクしながらそれぞれの PDCA を廻すことに注意する。また、PDCA の進捗評価は、課題に対する計画とその計画の履行状況の自己判定を基準とする。即ち、トライアル&エラーを尊重し、エラー（失敗）も財産と受け止める。従って、学生の成績そのものを教員個人に対する業績評価の基準とはしない。

### IV. 備考：測定項目一覧

	入学時 主眼：AP を満たす学生が入学しているか。	在学中 主眼：CP に沿った教育課程になっているか。DP の到達度はどの程度か	卒業時 主眼：DP を満たす人材を育成しているか	卒業後 主眼：DP を満たす人材を育成しているか (現在、未測定)
大学レベル	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3 ポリシーアンケート（入学時）</li> <li>・ 年度毎 GPA</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業アンケート</li> <li>・ 意見箱</li> <li>・ 3 ポリシーアンケート（2 年次 3 月）</li> <li>・ 年度毎 GPA</li> <li>・ 4 年卒業率</li> <li>・ 退学率</li> <li>・ 国家試験模試など外部模試の成績</li> <li>・ 臨床実習施設での評価</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3 ポリシーアンケート（卒業時）</li> <li>・ 最終 GPA</li> <li>・ 国家試験合格率</li> <li>・ 就職率</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 卒業後アンケート</li> <li>・ 就職先アンケート</li> <li>・ 生涯学修の観点から卒業生による学会等での報告数の測定も検討する</li> </ul>
学科専攻レベル	同上（学科専攻毎に集計）	同上（学科専攻毎に集計）	同上（学科専攻毎に集計）	同上（学科専攻毎に集計）
科目レベル	・ 科目毎 GPA	・ 科目毎 GPA	・ 科目毎 GPA	

AP：アドミッション・ポリシー、CP：カリキュラム・ポリシー、DP：アドミッション・ポリシー

3 ポリシーアンケート  
リハビリテーション学科

- ▶ **ディプロマ・ポリシー**は『入学時』『在学時』『卒業時』で、①から④の段階毎に、現在のあなた自身に「あてはまる」「どちらかと言うとあてはまる」「どちらかと言えばあてはまらない」「あてはまらない」の4件法で聴取する。
- ▶ **カリキュラム・ポリシー**は『在学時』『卒業時』で、本学のカリキュラムに「あてはまる」「どちらかと言うとあてはまる」「どちらかと言えばあてはまらない」「あてはまらない（あるいは、わからない）」の4件法で聴取する。
- ▶ **アドミッション・ポリシー**は『入学時』に、本学を受験する際に、どの程度意識していたかについて「大いに意識していた」「意識していた」「あまり意識していなかった」「まったく意識していなかった」の4件法で聴取する。
- ▶ 『入学時』アンケートでは“まだ授業を受ける前で聞き慣れない術語があると思いますが、知らない術語は「知らない」ということも含めて、あなたの直感で、最も合致する選択肢を選んでください”といった文言を冒頭の説明文に掲載する。

【ディプロマ・ポリシー】

東京医療学院大学は、学則に定められた所定の単位を修得し、以下の知識、能力と人間性を養った学生に対して学士の学位を授与します。

**リハビリテーション学科理学療法学専攻（以下、PT）**：リハビリテーション学科理学療法学専攻は、学則に定められた所定の単位を修得し、以下の知識、能力と人間性を養った学生に対して学士の学位を授与します。

**リハビリテーション学科作業療法学専攻（以下、OT）**：リハビリテーション学科作業療法学専攻は、学則に定められた所定の単位を修得し、以下の知識、能力と人間性を養った学生に対して学士の学位を授与します。

1. 【DP1】人についての幅広い知識と理解を持ち、生命を尊ぶことができる。

**PT**：人についての幅広い知識と理解を持ち、生命を尊ぶことができる。

**OT**：基礎医学をはじめとした幅広い知識を基に、身体と精神の双方から人を理解し、生命を尊ぶことができる。

① **大学、OT**：人体の構造としくみを説明できる。宗教、哲学、死生学、法学、医学などの幅広い側面から生命倫理について自身の考えを述べられる。**PT**：人体の構造としくみを説明できる（解剖学、生理学）。宗教、哲学、死生学、法学、医学などの幅広い側面から生命倫理を考えることができる。

- ② **大学、OT**：疾病を理解し、運動機能の回復あるいは生活の自立などへ応用するための基礎知識を説明できる。**PT**：疾病を理解し、運動機能の回復などへ応用するための基礎知識を説明できる。
- ③ **大学**：各専門の学問を発展させて統合し、治療あるいは生活支援の科学的根拠を説明できる。**PT、OT**：解剖学・生理学・運動学を発展させて統合し、治療の科学的根拠を説明できる。
- ④ **大学、OT**：対象者に尊厳をもって接し、学修した知識を活かした取り組みができる。**PT**：対象者に尊厳をもって接し、学んだ知識を実践できる。

問：あなたはDP1に関する次のことについて、現在のあなた自身に、どの程度、あてはまると思えますか。あなたの直感で、最も合致するものを選んでください。

	あてはまる	どちらかと言うとあてはまる	どちらかと言えばあてはまらない	あてはまらない
①-1：人体の構造としくみを説明できる。	4	3	2	1
①-2：宗教、哲学、死生学、法学、医学などの幅広い側面から生命倫理について自身の考えを述べられる。	4	3	2	1
②：運動機能の回復、あるいは、生活の自立などへ応用するための基礎知識を、疾病の理解に基づいて説明できる。	4	3	2	1
③：各専門の学問（主に1年次と2年次で学修する内容）を発展させて統合したことに基づいて、治療あるいは生活支援の科学的根拠を説明できる。	4	3	2	1
④：対象者に尊厳をもって接した上で、本学で学修した知識を活かした取り組みができる。	4	3	2	1

※ 選択肢の4～1は集計の際の値です。アンケート調査票では単に該当する選択肢を選ばせませす（値は表示いたしません）。

## 2. 【DP2】人を全人的に捉え、優しく寄り添うことができる。

**PT**：人を全人的に捉え、優しく寄り添うことができる。

**OT**：作業療法課程での学びや経験から、人を全人的に理解し寄り添うことができる。

- ① **大学、OT**：人及び疾病や障害を抱える者の心理について推察し、ロールプレイで対応することができる。**PT**：障害者の心理について推察し、ロールプレイで対応することができる。
- ② **大学、OT**：臨床・臨地における見学体験を通して対象者にふさわしい対応をとることができる。

**PT**：体験を通して対象者にふさわしい対応をとることができる。

③ **大学、PT、OT**：対象者の日常生活活動の困難さを理解し、基本的な支援ができる。

④ **大学、OT**：対象者の立場をプラスの側面を含めて理解し、指導者のもとで社会復帰あるいはその人らしい生活の構築に向けた支援ができる。**PT**：対象者の立場を理解し、社会復帰に向けた支援ができる。

問：あなたはDP2に関する次のことについて、現在のあなた自身に、どの程度、あてはまると思えますか。あなたの直感で、最も合致するものを選んでください。

	あてはまる	どちらかと言うとあてはまる	どちらかと言えばあてはまらない	あてはまらない
①：ロールプレイにおいて、人および疾病や障害を抱える者の心理を推察して対応することができる。	4	3	2	1
②：臨床・臨地における見学などの体験を通して、対象者にふさわしい対応をとることができる。	4	3	2	1
③：対象者の日常生活活動の困難さを理解した上で、基本的な支援ができる。	4	3	2	1
④：対象者の立場をプラスの側面（対象者が持つ強み）を含めて理解した上で、指導者のもとで社会復帰あるいはその人らしい生活の構築に向けた支援ができる。	4	3	2	1

※ 選択肢の4～1は集計の際の値です。アンケート調査票では単に該当する選択肢を選ばせませす（値は表示いたしません）。

3. 【DP3】多様な社会を理解し、保健医療福祉活動に貢献することができる。

**PT**：多様な社会を理解し、理学療法士として保健医療福祉活動に貢献することができる。

**OT**：医療・福祉を取り巻く多様な社会を理解し、幅広い作業療法の活動を広めることができる。

① **大学、OT**：ボランティア活動あるいはフィールドワークを通して地域の様々な人との交流できる。

**PT**：ボランティア活動を通して地域の様々な人との交流できる。

② **大学、OT**：地域における施設の役割や機能を理解し、実現可能な役割を見つけることができる。**PT**：地域における施設の役割や機能を理解し、実現可能な役割を見つける。

③ **大学、OT**：対象者を生活者としてとらえ、自身が目指す専門職の包括的な在り方を説明できる。**PT**：対象者を生活者としてとらえ、包括的な理学療法の在り方を説明できる。

④ **大学、OT**：自身が目指す専門職の地域における意義を理解し、実践できる。**PT**：地域における理学療法の意義を理解し、実践できる。

問：あなたはDP3に関する次のことについて、現在のあなた自身に、どの程度、あてはまると思いますか。あなたの直感で、最も合致するものを選んでください。

	あてはまる	どちらかと言うとあてはまる	どちらかと言えばあてはまらない	あてはまらない
①：ボランティア活動、あるいは、フィールドワークを通して、地域の様々な人との交流ができる。	4	3	2	1
②：地域における施設の役割や機能を理解した上で、実現可能な役割を見つけることができる。	4	3	2	1
③：対象者を生活者としてとらえた上で、あなたが目指す専門職の包括的な在り方を説明できる。	4	3	2	1
④：あなたが目指す専門職の地域における意義を理解した上で、実践できる。	4	3	2	1

※ 選択肢の4～1は集計の際の値です。アンケート調査票では単に該当する選択肢を選ばせませす（値は表示いたしません）。

4. 【DP4】地域の保健医療福祉の現状を知り、課題を見出すことで支援の必要性を理解し、取り組むことができる。

**PT**：地域の保健医療福祉の現状を知り、理学療法士の視点で課題を見出すことで支援の必要性を理解し、取り組むことができる。

**OT**：地域における作業療法の現状と課題を知り、課題解決のための実践を通して社会に貢献できる。

- ① **大学、PT、OT**：地域の保健・医療・福祉行政の現状と問題点について説明できる。
- ② **大学、PT、OT**：個人及び団体の疾病の原因になる生活・社会・自然環境因子について説明できる。
- ③ **大学、OT**：日本の医療及び福祉制度史を踏まえて、医療保険や介護保険制度の意義について説明できる。**PT**：日本の医療制度史を踏まえて、医療保険制度の意義について説明できる。
- ④ **大学、PT、OT**：専門職として地域で働くイメージを持ち、実現可能性を勘案したうえで具体的に説明できる。

問：あなたはDP4に関する次のことについて、現在のあなた自身に、どの程度、あてはまると思いますか。あなたの直感で、最も合致するものを選んでください。

	あてはまる	どちらかと言うとあてはまる	どちらかと言えばあてはまらない	あてはまらない
①：地域の保健・医療・福祉行政の現状と問題点について説明できる。	4	3	2	1

②：個人及び集団の疾病の原因になる生活・社会・自然環境因子について説明できる。	4	3	2	1
③：日本の医療及び福祉制度史を踏まえて、医療保険や介護保険制度の意義について説明できる。	4	3	2	1
④：あなたが目指す専門職として、地域で働くイメージを、実現可能性を勘案した上で（実際に実現が可能であるものを）、具体的に説明できる。	4	3	2	1

※ 選択肢の4～1は集計の際の値です。アンケート調査票では単に該当する選択肢を選ばせませす（値は表示いたしません）。

5. 【DP5】専門職として社会に貢献できる協調性とコミュニケーション能力がある。

PT：理学療法士として社会に貢献できる協調性とコミュニケーション能力がある。

OT：作業療法を実践し社会に貢献できる協調性とコミュニケーション能力がある。

- ① 大学、PT、OT：他者との良好なコミュニケーションを図ることができる。
- ② 大学、OT：臨床・臨地における見学体験を通して他職種や対象者との良好なコミュニケーションを図ることができる。PT：体験を通して他職種や対象者との良好なコミュニケーションを図ることができる。
- ③ 大学、PT、OT：多職種と連携し、専門職としての支援の在り方を説明できる。
- ④ 大学、OT：多職種と連携し、専門職としての支援に取り組むことができる。PT：多職種と連携し、専門職としての支援の在り方を実践できる。

問：あなたはDP5に関する次のことについて、現在のあなた自身に、どの程度、あてはまると思われますか。あなたの直感で、最も合致するものを選んでください。

	あてはまる	どちらかと言うとあてはまる	どちらかと言えばあてはまらない	あてはまらない
①：他者との良好なコミュニケーションを図ることができる。	4	3	2	1
②：臨床・臨地における見学などの体験を通して、他職種や対象者との良好なコミュニケーションを図ることができる。	4	3	2	1
③：あなたの目指す専門職における、多職種と連携した支援の在り方を説明できる。	4	3	2	1

④：あなたの目指す専門職として、多職種と連携した支援に取り組むことができる。	4	3	2	1
--	---	---	---	---

※ 選択肢の4～1は集計の際の値です。アンケート調査票では単に該当する選択肢を選ばせます（値は表示いたしません）。

6. 【DP6】専門職として社会に貢献するために生涯にわたり学修し自己研鑽することができる。

PT：理学療法士として社会に貢献するために生涯にわたり学修し自己研鑽することができる。

OT：リハビリテーションの専門職として、社会に貢献するために、生涯にわたって学修し自己研鑽するための基盤を身につける。

- ① 大学、PT、OT：スタディスキル及びスチューデントスキルを身につけ実践できる。
- ② 大学、PT、OT：学生同士で協働する学修スキルを身につけ実践できる。
- ③ 大学、PT、OT：臨床実習・臨地実習における指導者の指導の下で対象者への支援を通して学修するスキルを身につけ実践できる。
- ④ 大学、PT、OT：生涯にわたり学修し自己研鑽するスキルを身につけ取り組むことができる。

問：あなたはDP6に関する次のことについて、現在のあなた自身に、どの程度、あてはまると思いますか。あなたの直感で、最も合致するものを選んでください。

	あてはまる	どちらかと言うとあてはまる	どちらかと言えばあてはまらない	あてはまらない
①-1：スタディスキル（大学で学ぶために必要な技能：リーディング、レポートライティング、批判的思考、調査、プレゼンテーション、ノートのとり方、レポートの書き方など）を身につけた上で、実践している。	4	3	2	1
①-2：スチューデントスキル（学生生活に必要な技能：時間管理や学修習慣の確立）を身につけた上で、実践している。	4	3	2	1
②：学生同士で協働する学修方法を身につけ実践している。	4	3	2	1
③：臨床・臨地実習において学修した対象者への支援を踏まえて、引き続き、何をどのように学修すべきかを理解し実践している。	4	3	2	1
④：生涯にわたり学修し自己研鑽す	4	3	2	1

る技能を身につけていて、あなたの 目指す専門職として、社会に貢献す るために必要な学修を継続できる。				
--	--	--	--	--

※ 選択肢の4～1は集計の際の値です。アンケート調査票では単に該当する選択肢を選ばせませす（値は表示いたしません）。

### 【カリキュラム・ポリシー】

建学の精神を実践する専門職を育成するため、学年進行に沿って学修効果が高まる体系的な教育課程を、以下のポリシーに基づいて編成します。

**PT**：リハビリテーション学科理学療法学専攻は、建学の精神を実践する専門職を育成するため、学年進行に沿って学修効果が高まる体系的な教育課程を、以下のポリシーに基づいて編成します。

**OT**：リハビリテーション学科作業療法学専攻は、建学の精神を実践する専門職を育成するため、学年進行に沿って学修効果が高まる体系的な教育課程を、以下のポリシーに基づいて編成します。

1. 深く人間を理解し教養を高めるため、多様な教養科目・専門基礎科目と専門科目の連携を図り、保健・医療・福祉を総合的に学ぶ。

**PT**：深く人間を理解し教養を高めるため、多様な教養科目・専門基礎科目と専門科目の連携を図り、保健・医療・福祉を総合的に学ぶ。

**OT**：深く人間を理解し教養を高めるため、多様な教養科目・専門基礎科目と専門科目の統合的理解を深め、保健・医療・福祉を総合的に学ぶ。

2. 大学の理念を象徴する科目を通して、全ての学生が基盤となる倫理や知識を共有する。

**PT**：大学の教育理念を象徴する特色科目を通して、理学療法の基盤となる倫理や知識を共有する。

**OT**：大学の理念を象徴する科目や作業療法学の学びを通して、本学の理念を理解し基盤となる倫理や知識を共有する。

3. 基礎から専門科目、演習や実習を系統的に学ぶことによって、理論に裏打ちされた科学的実践力を身につける。

**PT**：基礎医学実習や専門基礎、専門科目の臨床実習を通して、理論に裏打ちされた科学的実践力を身につける。

**OT**：各学年に配置された実習を通して、学内で学習した理論に裏打ちされた科学的実践力を身につける。

4. 社会で活躍する職業人に必要な表現力、コミュニケーション能力を身につける。

**PT**：社会で活躍する理学療法士として必要な基礎知識や技術、表現力、コミュニケーション能力を身につける。

**OT**：社会で活躍する作業療法士に必要な基礎知識や技術、コミュニケーション能力を身につける。

5. 演習や実習を通して医療系専門職として必要な態度、習慣を身につける。

PT：演習や実習を通して理学療法士として必要な態度、習慣を身につける。

OT：演習・実習を通して作業療法士に求められる倫理観や必要な態度、習慣を身につける。

6. 自己の到達レベルを常に意識し、主体的に自己研鑽する姿勢を身につける

PT：自己の到達レベルを常に意識し、主体的に自己研鑽する姿勢を身につける。

OT：自己の到達レベルを常に意識し、生涯にわたって主体的に自己研鑽する姿勢を身につける。

問：本学のカリキュラムは、次のカリキュラム・ポリシーに、どの程度、あてはまるとお考えですか。あなたの直感で、最も合致するものを選んでください。

	あてはまる	どちらかと言うと あてはまる	どちらかと言えば あてはまらない	あてはまらない (あるいは、 わからない)
1：深く人間を理解し教養を高めるため、多様な教養科目・専門基礎科目と専門科目の連携を図り、保健・医療・福祉を総合的に学ぶ。	4	3	2	1
2：大学の理念を象徴する科目（大学導入論・ボランティア入門・生命倫理）を通して、全ての学生が基盤となる倫理や知識を共有する。	4	3	2	1
3：基礎から専門科目、演習や実習を系統的に学ぶことによって、理論に裏打ちされた科学的実践力を身につける。	4	3	2	1
4：社会で活躍する職業人に必要な表現力、コミュニケーション能力を身につける。	4	3	2	1
5：演習や実習を通して医療系専門職として必要な態度、習慣を身につける。	4	3	2	1
6：自己の到達レベルを常に意識し、主体的に自己研鑽する姿勢を身につける。	4	3	2	1

※ 選択肢の4～1は集計の際の値です。アンケート調査票では単に該当する選択肢を選ばせます（値は表示いたしません）。

## 【アドミッション・ポリシー】

**大学：**建学の精神及び教育理念のもとに、保健医療の専門職として求められる幅広い教養と高い倫理観及びコミュニケーション能力を備え、常に、最新の知識と技術を求めて学修するという探究心を持ち、保健医療福祉を通して社会に貢献できる人材の育成を目的として、次のような人を求めています。

**PT：**リハビリテーション学科理学療法学専攻は、建学の精神及び教育理念のもとに、理学療法士として求められる幅広い教養と高い倫理観を備え、常に最新の知識と技術を求めて学修するという探究心を持ち、保健医療、特に理学療法を通して社会に貢献できる人材の育成を目的として、次のような人を求めています。

**OT：**リハビリテーション学科作業療法学専攻は、建学の精神及び教育理念のもとに、作業療法士として求められる幅広い教養と高い倫理観を備え、常に最新の知識と技術を求めて学修するという探究心を持ち、保健医療、特に作業療法を通して社会に貢献できる人材の育成を目的として、次のような人を求めています。

1. 優しい心で、敬意を持って人に接することができる人

**PT：**優しい心で、敬意を持って人に接することができる人

**OT：**優しい心で、敬意を持って人に接することができる人

2. 保健医療の専門職を目指す向上心を持ち、自己研鑽に努める人

**PT：**他者に興味を持ち、理学療法士を目指す向上心がある人

**OT：**他者に興味を持ち、作業療法士を目指す、向上心のある人

3. 保健医療福祉を通して他者と協働し、人々や地域社会に貢献しようとする人

**PT：**理学療法を通して、人々の役に立つことや地域社会に貢献しようとする人

**OT：**作業療法を通して、人々の役に立つことや地域社会に貢献しようとする人

問：本学を受験する際に、次の本学のアドミッション・ポリシーを、どの程度、意識していましたか。最も合致するものを選んでください。

	大いに意識していた	意識していた	あまり意識していなかった	まったく意識していなかった
1：優しい心で、敬意を持って人に接することができる人	4	3	2	1
2：保健医療の専門職を目指す向上心を持ち、自己研鑽に努める人	4	3	2	1
3：保健医療福祉を通して他者と協働し、人々や地域社会に貢献しようとする人	4	3	2	1

※ 選択肢の4～1は集計の際の値です。アンケート調査票では単に該当する選択肢を選ばせます（値は表示いたしません）。

## 3 ポリシーアンケート

看護学科：DPに至る段階①から④の一部が大学及びリハ学科とは異なる

- ▶ **ディプロマ・ポリシー**は『入学時』『在学時』『卒業時』で、①から④の段階毎に、現在のあなた自身に「あてはまる」「どちらかと言うとあてはまる」「どちらかと言えばあてはまらない」「あてはまらない」の4件法で聴取する。
- ▶ **カリキュラム・ポリシー**は『在学時』『卒業時』で、本学のカリキュラムに「あてはまる」「どちらかと言うとあてはまる」「どちらかと言えばあてはまらない」「あてはまらない（あるいは、わからない）」の4件法で聴取する。
- ▶ **アドミッション・ポリシー**は『入学時』に、本学を受験する際に、どの程度意識していたかについて「大いに意識していた」「意識していた」「あまり意識していなかった」「まったく意識していなかった」の4件法で聴取する。
- ▶ 『入学時』アンケートでは“まだ授業を受ける前で聞き慣れない術語があると思いますが、知らない術語は「知らない」ということも含めて、あなたの直感で、最も合致する選択肢を選んでください”といった文言を冒頭の説明文に掲載する。

## 【ディプロマ・ポリシー】

東京医療学院大学は、学則に定められた所定の単位を修得し、以下の知識、能力と人間性を養った学生に対して学士の学位を授与します。

**看護学科（以下、Ns）**：看護学科は、学則に定められた所定の単位を修得し、以下の知識、能力と人間性を養った学生に対して学士の学位を授与します。

1. 【DP1】人についての幅広い知識と理解を持ち、生命を尊ぶことができる。

**Ns**：人についての幅広い知識と理解を持ち、生命を尊ぶことができる。

- ① **大学**：人体の構造としくみを説明できる。宗教、哲学、死生学、法学、医学などの幅広い側面から生命倫理について自身の考えを述べられる。**Ns**：人と社会を理解し、幅広い側面から生命の価値を理解できる。
- ② **大学**：疾病を理解し、運動機能の回復あるいは生活の自立などへ応用するための基礎知識を説明できる。**Ns**：人と社会を理解し、幅広い側面から生命倫理について自己の考えを述べることができる。
- ③ **大学**：各専門の学問を発展させて統合し、治療あるいは生活支援の科学的根拠を説明できる。**Ns**：各専門の学問を発展させて統合し、対象者を尊重した生活支援ができる。
- ④ **大学**：対象者に尊厳をもって接し、学修した知識を活かした取り組みができる。**Ns**：対象者に尊厳をもって接し、対象者を尊重した看護実践ができる。

問：あなたはDP1に関する次のことについて、現在のあなた自身に、どの程度、あてはまると思えますか。あなたの直感で、最も合致するものを選んでください。

	あてはまる	どちらかと言うとあてはまる	どちらかと言えばあてはまらない	あてはまらない
①：人と社会を理解し、幅広い側面から生命の価値を理解できる。	4	3	2	1
②：人と社会を理解し、幅広い側面から生命倫理について自己の考えを述べるができる。	4	3	2	1
③：各専門の学問を発展させて統合し、対象者を尊重した生活支援ができる。	4	3	2	1
④：対象者に尊厳をもって接し、対象者を尊重した看護実践ができる。	4	3	2	1

※ 選択肢の4～1は集計の際の値です。アンケート調査票では単に該当する選択肢を選ばせます（値は表示いたしません）。

## 2. 【DP2】人を全人的に捉え、優しく寄り添うことができる。

**Ns**：人を全人的に捉え、優しく寄り添うことができる。

- ① **大学**：人及び疾病や障害を抱える者の心理について推察し、ロールプレイで対応することができる。**Ns**：人が病と対峙する過程の心理について推察し、援助を考えることができる。
- ② **大学**：臨床・臨地における見学体験を通して対象者にふさわしい対応をとることができる。**Ns**：臨地実習での体験を通し対象者に相応しい態度を取ることができる。
- ③ **大学**：対象者の日常生活活動の困難さを理解し、基本的な支援ができる。**Ns**：人の身体的状態、心理的状态、社会的状態を理解し、生活を自立させるために必要な基礎的知識を説明できる。
- ④ **大学**：対象者の立場をプラスの側面を含めて理解し、指導者のもとで社会復帰あるいはその人らしい生活の構築に向けた支援ができる。**Ns**：対象者の苦痛を理解し、対象者の状態にあわせた援助ができる。

問：あなたはDP2に関する次のことについて、現在のあなた自身に、どの程度、あてはまると思えますか。あなたの直感で、最も合致するものを選んでください。

	あてはまる	どちらかと言うとあてはまる	どちらかと言えばあてはまらない	あてはまらない
①：人が病と対峙する過程の心理について推察し、援助を考えることができる。	4	3	2	1
②：臨地実習での体験を通し対象者	4	3	2	1

に相応しい態度を取ることができる。				
③：人の身体的状態、心理的状态、社会的状態を理解し、生活を自立させるために必要な基礎的知識を説明できる。	4	3	2	1
④：対象者の苦痛を理解し、対象者の状態にあわせた援助ができる。	4	3	2	1

※ 選択肢の4～1は集計の際の値です。アンケート調査票では単に該当する選択肢を選ばせます（値は表示いたしません）。

### 3. 【DP3】多様な社会を理解し、保健医療福祉活動に貢献することができる。

**Ns**：多様な社会を理解し、看護専門職者として保健医療福祉活動に貢献することができる。

- ① **大学**：ボランティア活動あるいはフィールドワークを通して地域の様々な人との交流できる。**Ns**：ボランティア活動あるいはフィールドワークを通して様々な人と交流できる。
- ② **大学**：地域における施設の役割や機能を理解し、実現可能な役割を見つけることができる。**Ns**：地域における施設の役割や機能を理解し、実現可能な役割を説明できる。
- ③ **大学**：対象者を生活者としてとらえ、自身が目指す専門職の包括的な在り方を説明できる。**Ns**：保健医療福祉活動における看護専門職者として自己の目指す方向性を説明できる。
- ④ **大学**：自身が目指す専門職の地域における意義を理解し、実践できる。**Ns**：社会の様々な場で保健医療福祉活動に貢献する実践力を身につける。

問：あなたはDP3に関する次のことについて、現在のあなた自身に、どの程度、あてはまると思いますか。あなたの直感で、最も合致するものを選んでください。

	あてはまる	どちらかと言うとあてはまる	どちらかと言えばあてはまらない	あてはまらない
①：ボランティア活動あるいはフィールド・ワークを通して様々な人と交流できる。	4	3	2	1
②：地域における施設の役割や機能を理解し、実現可能な役割を説明できる。	4	3	2	1
③：保健医療福祉活動における看護専門職者として自己の目指す方向性を説明できる。	4	3	2	1
④：社会の様々な場で保健医療福祉活動に貢献する実践力を身につける。	4	3	2	1

※ 選択肢の4～1は集計の際の値です。アンケート調査票では単に該当する選択肢を選ばせませす（値は表示いたしません）。

4. 【DP4】地域の保健医療福祉の現状を知り、課題を見出すことで支援の必要性を理解し、取り組むことができる。

**N s**：地域の保健医療福祉の現状を知り、看護専門職者の視点で課題を見出すことで支援の必要性を理解し、取り組むことができる。

- ① **大学**：地域の保健・医療・福祉行政の現状と問題点について説明できる。**N s**：保健・医療・福祉の現状を理解し、問題点を説明できる。
- ② **大学**：個人及び集団の疾病の原因になる生活・社会・自然環境因子について説明できる。**N s**：個人及び集団の疾病の要因となる生活・社会・環境因子について説明できる。
- ③ **大学**：日本の医療及び福祉制度史を踏まえて、医療保険や介護保険制度の意義について説明できる。**N s**：日本の医療・福祉制度について国際的な視点から意義と課題を説明できる。
- ④ **大学**：専門職として地域で働くイメージを持ち、実現可能性を勘案したうえで具体的に説明できる。**N s**：看護専門職者として見出した課題を解決するための具体策を提案できる。

問：あなたはDP4に関する次のことについて、現在のあなた自身に、どの程度、あてはまると思われますか。あなたの直感で、最も合致するものを選んでください。

	あてはまる	どちらかと言うとあてはまる	どちらかと言えばあてはまらない	あてはまらない
①：保健・医療・福祉の現状を理解し、問題点を説明できる。	4	3	2	1
②：個人及び集団の疾病の要因となる生活・社会・環境因子について説明できる。	4	3	2	1
③：日本の医療・福祉制度について国際的な視点から意義と課題を説明できる。	4	3	2	1
④：看護専門職者として見出した課題を解決するための具体策を提案できる。	4	3	2	1

※ 選択肢の4～1は集計の際の値です。アンケート調査票では単に該当する選択肢を選ばせませす（値は表示いたしません）。

5. 【DP5】専門職として社会に貢献できる協調性とコミュニケーション能力がある。

**N s**：看護専門職者として社会に貢献できる協調性とコミュニケーション能力がある。

- ① **大学**：他者との良好なコミュニケーションを図ることができる。**N s**：他者と良好なコミュニケーション

ョンを図ることができる。

- ② **大学**：臨床・臨地における見学体験を通して他職種や対象者との良好なコミュニケーションを図ることができる。**N s**：アサーティブなコミュニケーションを実践できる。
- ③ **大学**：多職種と連携し、専門職としての支援の在り方を説明できる。**N s**：他職種や対象者と良好なコミュニケーションを図ることができる。
- ④ **大学**：多職種と連携し、専門職としての支援に取り組むことができる。**N s**：看護専門職者として他職種と連携するコミュニケーションがとれる。

問：あなたはDP5に関する次のことについて、現在のあなた自身に、どの程度、あてはまると思われますか。あなたの直感で、最も合致するものを選んでください。

	あてはまる	どちらかと言うとあてはまる	どちらかと言えばあてはまらない	あてはまらない
①：他者と良好なコミュニケーションを図ることができる。	4	3	2	1
②：アサーティブなコミュニケーションを実践できる。	4	3	2	1
③：他職種や対象者と良好なコミュニケーションを図ることができる。	4	3	2	1
④：看護専門職者として他職種と連携するコミュニケーションがとれる。	4	3	2	1

※ 選択肢の4～1は集計の際の値です。アンケート調査票では単に該当する選択肢を選ばせませす（値は表示いたしません）。

6. 【DP6】 専門職として社会に貢献するために生涯にわたり学修し自己研鑽することができる。

**N s**：看護専門職者として社会に貢献するために生涯にわたり学修し自己研鑽することができる。

- ① **大学**：スタディスキル及びスチューデントスキルを身につけ実践できる。**N s**：スタディスキル及びスチューデントスキルを身につけ実践できる。
- ② **大学**：学生同士で協働する学修スキルを身につけ実践できる。**N s**：自己の看護実践を振り返り、自己洞察をすることができる。
- ③ **大学**：臨床実習・臨地実習における指導者の指導の下で対象者への支援を通して学修するスキルを身につけ実践できる。**N s**：看護専門職者として生涯にわたり学修し自己研鑽する必要性を説明できる。
- ④ **大学**：生涯にわたり学修し自己研鑽するスキルを身につけ取り組むことできる。**N s**：看護専門職者として生涯にわたり学修し自己研鑽し続けるスキルを身につける。

問：あなたはDP6に関する次のことについて、現在のあなた自身に、どの程度、あてはまると思われますか。あなたの直感で、最も合致するものを選んでください。

	あてはまる	どちらかと言うとあてはまる	どちらかと言えばあてはまらない	あてはまらない
①：スタディスキル及びスケジュールスキルを身につけ実践できる。	4	3	2	1
②：自己の看護実践を振り返り、自己洞察をすることができる。	4	3	2	1
③：看護専門職者として生涯にわたり学修し自己研鑽する必要性を説明できる。	4	3	2	1
④：看護専門職者として生涯にわたり学修し自己研鑽し続けるスキルを身につける。	4	3	2	1

※ 選択肢の4～1は集計の際の値です。アンケート調査票では単に該当する選択肢を選ばせませす（値は表示いたしません）。

#### 【カリキュラム・ポリシー】

建学の精神を実践する専門職を育成するため、学年進行に沿って学修効果が高まる体系的な教育課程を、以下のポリシーに基づいて編成します。

**N s**：看護学科は、建学の精神を実践する専門職者を育成するため、学年進行に沿って学修効果が高まる体系的な教育課程を、以下のポリシーに基づいてカリキュラムを編成します。

1. 深く人間を理解し教養を高めるため、多様な教養科目・専門基礎科目と専門科目の連携を図り、保健・医療・福祉を総合的に学ぶ。

**N s**：深く人間を理解し教養を高めるために教養科目を学修し、専門基礎科目や専門科目との統合を図り、保健・医療・福祉を総合的に学ぶ。

2. 大学の理念を象徴する科目を通して、全ての学生が基盤となる倫理や知識を共有する。

**N s**：4年間を通して専門職性の基盤となる科目を段階的に学修し、保健医療福祉に携わる看護専門職者に求められる倫理及び思考と実践力を身につける。

3. 基礎から専門科目、演習や実習を系統的に学ぶことによって、理論に裏打ちされた科学的実践力を身につける。

**N s**：理論と実践の統合を図るために臨地実習を学修し、専門知識に基づく問題解決能力と看護実践能力を身につける。

4. 社会で活躍する職業人に必要な表現力、コミュニケーション能力を身につける。

**N s**：保健医療の専門職者としてのアイデンティティを確立し、多職種との連携と協働を図りチーム医療を構築するために、人間関係能力を身につける。

5. 演習や実習を通して医療系専門職として必要な態度、習慣を身につける。

**N s** : 地域社会のニーズを踏まえ設置した助産師教育課程を、自己の関心に基づいて選択することができる。

6. 自己の到達レベルを常に意識し、主体的に自己研鑽する姿勢を身につける

**N s** : 学生自身の自立した自己調整学修を促進し、かつ生涯に亘って学修を継続する基盤を身につける。

問：本学のカリキュラムは、次のカリキュラム・ポリシーに、どの程度、あてはまると思いますか。あなたの直感で、最も合致するものを選んでください。

	あてはまる	どちらかと言うとあてはまる	どちらかと言えばあてはまらない	あてはまらない (あるいは、わからない)
1：深く人間を理解し教養を高めるため、多様な教養科目・専門基礎科目と専門科目の連携を図り、保健・医療・福祉を総合的に学ぶ。	4	3	2	1
2：大学の理念を象徴する科目（セルフディベロップメント、キャリアマネジメント論、生命倫理）を通して、全ての学生が基盤となる倫理や知識を共有する。	4	3	2	1
3：基礎から専門科目、演習や実習を系統的に学ぶことによって、理論に裏打ちされた科学的実践力を身につける。	4	3	2	1
4：社会で活躍する職業人に必要な表現力、コミュニケーション能力を身につける。	4	3	2	1
5：演習や実習を通して医療系専門職として必要な態度、習慣を身につける。	4	3	2	1
6：自己の到達レベルを常に意識し、主体的に自己研鑽する姿勢を身につける。	4	3	2	1

※ 選択肢の4～1は集計の際の値です。アンケート調査票では単に該当する選択肢を選ばせませす（値は表示いたしません）。

## 【アドミッション・ポリシー】

**大学：**建学の精神及び教育理念のもとに、保健医療の専門職として求められる幅広い教養と高い倫理観及びコミュニケーション能力を備え、常に、最新の知識と技術を求めて学修するという探究心を持ち、保健医療福祉を通して社会に貢献できる人材の育成を目的として、次のような人を求めています。

**N s：**看護学科は、建学の精神及び教育理念のもとに、看護専門職者として求められる幅広い教養と高い倫理観及びコミュニケーション能力を備え、常に、最新の知識と技術を求めて学修するという探究心を持ち、保健医療福祉活動を通して社会に貢献できる人材の育成を目的として、次のような人を求めています。

1. 優しい心で、敬意を持って人に接することができる人

**N s：**優しい心で、敬意を持って人に接することができる人

2. 保健医療の専門職を目指す向上心を持ち、自己研鑽に努める人

**N s：**看護専門職者を目指す向上心を持ち、自己研鑽に努める人

3. 保健医療福祉を通して他者と協働し、人々や地域社会に貢献しようとする人

**N s：**保健医療福祉活動を通して他者と協働し、人々や地域社会に貢献しようとする人

問：本学を受験する際に、次の本学のアドミッション・ポリシーを、どの程度、意識していましたか。最も合致するものを選んでください。

	大いに意識していた	意識していた	あまり意識していなかった	まったく意識していなかった
1：優しい心で、敬意を持って人に接することができる人	4	3	2	1
2：保健医療の専門職を目指す向上心を持ち、自己研鑽に努める人	4	3	2	1
3：保健医療福祉を通して他者と協働し、人々や地域社会に貢献しようとする人	4	3	2	1

※ 選択肢の4～1は集計の際の値です。アンケート調査票では単に該当する選択肢を選ばせます（値は表示いたしません）。

## リハビリテーション学科 ディプロマ・ポリシー (DP) と科目 (必修科目) の対応

DP1【大学】人についての幅広い知識と理解を持ち、生命を尊ぶことができる。

【理学】人についての幅広い知識と理解を持ち、生命を尊ぶことができる。

【作業】基礎医学をはじめとした幅広い知識を基に、身体と精神の双方から人を理解し、生命を尊ぶことができる。

- ① **大学、作業**：人体の構造としくみを説明できる。宗教、哲学、死生学、法学、医学などの幅広い側面から生命倫理について自身の考えを述べられる。**理学**：人体の構造としくみを説明できる（解剖学、生理学）。宗教、哲学、死生学、法学、医学などの幅広い側面から生命倫理を考えることができる。

	PT	OT
生命倫理	○	○
心理学概論	○	○
人間発達学	○	○
自然科学基礎	○	○
物理学入門	○	
解剖学 (人体の構造)	○	○
解剖学 A 演習 (骨学・筋学・神経系)	○	○
解剖学 B 演習 (内臓学・心脈管系)	○	○
生理学 (細胞生理学・循環呼吸系)	○	○
生理学 A 演習 (神経系・運動機能)	○	○
生理学 B 演習 (運動の中枢性制御など)	○	○
生理学実習	○	○
運動学	○	○
栄養学	○	○
理学療法評価学 A	○	
理学療法評価学 A 演習	○	
理学療法評価学 B	○	
理学療法評価学 B 演習	○	
理学療法評価学 C	○	
理学療法評価学 C 演習	○	
作業療法学概論		○
基礎作業学概論		○
基礎作業学演習 A (作業別技法)		○

作業療法評価学 B (精神)		○
----------------	--	---

- ② 大学、作業：疾病を理解し、運動機能の回復あるいは生活の自立などへ応用するための基礎知識を説明できる。理学：疾病を理解し、運動機能の回復などへ応用するための基礎知識を説明できる。

	PT	OT
運動学	○	○
運動学演習 (理学療法)	○	
運動学演習 (作業療法)		○
運動学実習 (理学療法)	○	
運動学実習 (作業療法)		○
病理学概論	○	○
薬理学	○	○
内科学	○	○
整形外科学	○	○
神経内科学	○	○
精神医学 1	○	○
小児科学	○	○
脳神経外科学	○	○
リハビリテーション概論	○	○
理学療法評価学 A	○	
理学療法評価学 A 演習	○	
理学療法評価学 B	○	
理学療法評価学 B 演習	○	
理学療法評価学 C	○	
理学療法評価学 C 演習	○	
物理療法学	○	
物理療法学演習	○	
義肢学 (理学療法)	○	
装具学 (理学療法)	○	
基礎作業学演習 B (作業分析等)		○
作業療法評価学 A (身体)		○
作業療法評価学 A 演習 (身体)		○
作業療法評価学 B 演習 (精神)		○
作業療法評価学 C (発達)		○
精神障害作業療法治療学 1 (精神機能回復理論)		○

- ③ 大学：各専門の学問を発展させて統合し、治療あるいは生活支援の科学的根拠を説明できる。理学、作業：解剖学・生理学・運動学を発展させて統合し、治療の科学的根拠を説明できる。

	PT	OT
精神医学 2		○
医用画像解析学	○	○
リハビリテーション医学	○	○
理学療法学研究法	○	
理学療法評価学 D	○	
理学療法技術論 A	○	
理学療法技術論 B	○	
理学療法技術論 C	○	
理学療法技術論 D	○	
理学療法技術論 E	○	
理学療法技術論 F	○	
運動療法学（基礎）	○	
運動療法学（病態）	○	
運動療法学（運動器系）	○	
運動療法学（外傷性疾患）	○	
運動療法学（中枢神経系）	○	
物理療法学	○	
物理療法学演習	○	
作業療法学研究法		○
作業療法評価学 D（画像評価）		○
身体障害作業療法治療学 1（身体機能回復理論）		○
身体障害作業療法治療学 2（疾患別治療学）		○
身体障害作業療法治療学演習		○
精神障害作業療法治療学 2（疾患別治療学）		○
精神障害作業療法治療学演習		○
発達期作業療法治療学		○
老年期作業療法治療学		○
老年期作業療法治療学演習		○
高次脳機能障害作業療法治療学		○
高次脳機能障害作業療法治療学演習		○
日常生活活動学（作業療法）		○

日常生活活動学演習（作業療法）		○
義肢学（理学療法）	○	
義肢学（作業療法）		○
装具学（理学療法）	○	
装具学（作業療法）		○

- ④ **大学、作業**：対象者に尊厳をもって接し、学修した知識を活かした取り組みができる。**理学**：対象者に尊厳をもって接し、学んだ知識を実践できる。

	PT	OT
総合臨床実習（理学療法）	○	
身体障害領域総合臨床実習（作業療法）		○
精神障害領域総合臨床実習（作業療法）		○
卒業研究（作業療法）		○

DP2【大学】人を全人的に捉え、優しく寄り添うことができる。

【理学】人を全人的に捉え、優しく寄り添うことができる。

【作業】作業療法課程での学びや経験から、人を全人的に理解し寄り添うことができる。

- ① **大学、作業**：人及び疾病や障害を抱える者の心理について推察し、ロールプレイで対応することができる。**理学**：障害者の心理について推察し、ロールプレイで対応することができる。

	PT	OT
ボランティア入門	○	○
心理学概論	○	○
人間発達学	○	○
コミュニケーション論	○	○
カウンセリング入門	○	○
臨床心理学	○	○
作業療法評価学B（精神）		○

- ② **大学、作業**：臨床・臨地における見学体験を通して対象者にふさわしい対応をとることができる。**理学**：体験を通して対象者にふさわしい対応をとることができる。

	PT	OT
基礎作業学演習B（作業分析等）		○
作業療法評価学A（身体）		○

作業療法評価学A 演習（身体）		○
作業療法評価学B 演習（精神）		○
作業療法評価学C（発達）		○
精神障害作業療法治療学1（精神機能回復理論）		○
臨床見学体験実習（理学療法）	○	
臨床見学体験実習（作業療法）		○

③ 大学、理学、作業：対象者の日常生活活動の困難さを理解し、基本的な支援ができる。

	PT	OT
理学療法概論2（理学療法トピックス）	○	
作業療法評価学D（画像評価）		○
身体障害作業療法治療学1（身体機能回復理論）		○
身体障害作業療法治療学2（疾患別治療学）		○
身体障害作業療法治療学演習		○
精神障害作業療法治療学2（疾患別治療学）		○
精神障害作業療法治療学演習		○
発達期作業療法治療学		○
老年期作業療法治療学		○
老年期作業療法治療学演習		○
高次脳機能障害作業療法治療学		○
高次脳機能障害作業療法治療学演習		○
日常生活活動学（理学療法）	○	
日常生活活動学（作業療法）		○
日常生活活動学演習（理学療法）	○	
日常生活活動学演習（作業療法）		○
義肢学（理学療法）	○	
義肢学（作業療法）		○
装具学（理学療法）	○	
装具学（作業療法）		○
職業関連作業療法学		○
評価実習（理学療法）	○	
身体障害領域評価実習（作業療法）		○
精神障害領域評価実習（作業療法）		○
地域作業療法実習		○

- ④ **大学、作業**：対象者の立場をプラスの側面を含めて理解し、指導者のもとで社会復帰あるいはその人らしい生活の構築に向けた支援ができる。**理学**：対象者の立場を理解し、社会復帰に向けた支援ができる。

	PT	OT
総合臨床実習（理学療法）	○	
身体障害領域総合臨床実習（作業療法）		○
精神障害領域総合臨床実習（作業療法）		○

DP3【大学】多様な社会を理解し、保健医療福祉活動に貢献することができる。

【理学】多様な社会を理解し、理学療法士として保健医療福祉活動に貢献することができる。

【作業】医療・福祉を取り巻く多様な社会を理解し、幅広い作業療法の活動を広めることができる。

- ① **大学、作業**：ボランティア活動あるいはフィールドワークを通して地域の様々な人との交流できる。**理学**：ボランティア活動を通して地域の様々な人との交流できる。

	PT	OT
ボランティア入門	○	○

- ② **大学、作業**：地域における施設の役割や機能を理解し、実現可能な役割を見つけることができる。**理学**：地域における施設の役割や機能を理解し、実現可能な役割を見つける。

	PT	OT
臨床見学体験実習（理学療法）	○	
臨床見学体験実習（作業療法）		○

- ③ **大学、作業**：対象者を生活者としてとらえ、自身が目指す専門職の包括的な在り方を説明できる。**理学**：対象者を生活者としてとらえ、包括的な理学療法の在り方を説明できる。

	PT	OT
地域リハビリテーション学	○	○
地域理学療法学	○	
地域作業療法学		○
作業療法管理学		○

- ④ **大学、作業**：自身が目指す専門職の地域における意義を理解し、実践できる。**理学**：地域における理学療法の意義を理解し、実践できる。

	PT	OT
地域理学療法実習	○	
地域作業療法実習		○

DP4 【大学】地域の保健医療福祉の現状を知り、課題を見出すことで支援の必要性を理解し、取り組むことができる。

【理学】地域の保健医療福祉の現状を知り、理学療法士の視点で課題を見出すことで支援の必要性を理解し、取り組むことができる。

【作業】地域における作業療法の現状と課題を知り、課題解決のための実践を通して社会に貢献できる。

- ① 大学、理学、作業：地域の保健・医療・福祉行政の現状と問題点について説明できる。

	PT	OT
多職種連携論	○	○
地域の保健医療福祉		○

- ② 大学、理学、作業：個人及び集団の疾病の原因になる生活・社会・自然環境因子について説明できる。

	PT	OT
公衆衛生学	○	○
医療安全管理	○	○

- ③ 大学、作業：日本の医療及び福祉制度史を踏まえて、医療保険や介護保険制度の意義について説明できる。理学：日本の医療制度史を踏まえて、医療保険制度の意義について説明できる。

	PT	OT
保健医療制度概論	○	
地域リハビリテーション学	○	○
地域作業療法学		○
作業療法管理学		○
卒業研究（作業療法）		○

- ④ 大学、理学、作業：専門職として地域で働くイメージを持ち、実現可能性を勘案したうえで具体的に説明できる。

	PT	OT
地域理学療法実習	○	
地域作業療法実習		○

DP5 【大学】 専門職として社会に貢献できる協調性とコミュニケーション能力がある。

【理学】 理学療法士として社会に貢献できる協調性とコミュニケーション能力がある。

【作業】 作業療法を実践し社会に貢献できる協調性とコミュニケーション能力がある。

- ① 大学、理学、作業：他者との良好なコミュニケーションを図ることができる。

	PT	OT
大学導入論	○	○
ボランティア入門	○	○
コミュニケーション論	○	○
カウンセリング入門	○	○
臨床心理学	○	○
多職種連携論	○	○
理学療法学概論1（理学療法導入論）	○	

- ② 大学、作業：臨床・臨地における見学体験を通して他職種や対象者との良好なコミュニケーションを図ることができる。理学：体験を通して他職種や対象者との良好なコミュニケーションを図ることができる。

	PT	OT
臨床見学体験実習（理学療法）	○	
臨床見学体験実習（作業療法）		○

- ③ 大学、理学、作業：多職種と連携し、専門職としての支援の在り方を説明できる。

	PT	OT
保健医療英語入門	○	○
理学療法学概論2（理学療法トピックス）	○	
理学療法管理学	○	
地域リハビリテーション学	○	○
地域理学療法学	○	
評価実習（理学療法）	○	

身体障害領域評価実習（作業療法）		○
精神障害領域評価実習（作業療法）		○
地域作業療法実習		○

- ④ **大学、作業**：多職種と連携し、専門職としての支援に取り組むことができる。**理学**：多職種と連携し、専門職としての支援の在り方を実践できる。

	PT	OT
総合臨床実習（理学療法）	○	
身体障害領域総合臨床実習（作業療法）		○
精神障害領域総合臨床実習（作業療法）		○

DP6 【大学】専門職として社会に貢献するために生涯にわたり学修し自己研鑽することができる。

【理学】理学療法士として社会に貢献するために生涯にわたり学修し自己研鑽することができる。

【作業】リハビリテーションの専門職として、社会に貢献するために、生涯にわたって学修し自己研鑽するための基盤を身につける。

- ① **大学、理学、作業**：スタディスキル及びチューデントスキルを身につけ実践できる。

	PT	OT
大学導入論	○	○
学びの技法	○	○
情報処理応用	○	○
理学療法学概論1（理学療法導入論）	○	
作業療法学概論		○

- ② **大学、理学、作業**：学生同士で協働する学修スキルを身につけ実践できる。

	PT	OT
統計学		○
解剖学 A 演習（骨学・筋学・神経系）	○	○
解剖学 B 演習（内臓学・心脈管系）	○	○
生理学 A 演習（神経系・運動機能）	○	○
生理学 B 演習（運動の中枢性制御など）	○	○
生理学実習	○	○
運動学演習（理学療法）	○	
運動学演習（作業療法）		○

運動学実習（理学療法）	○	
運動学実習（作業療法）		○
理学療法評価学 A 演習	○	
理学療法評価学 B 演習	○	
理学療法評価学 C 演習	○	
運動療法学（基礎）	○	
運動療法学（病態）	○	
運動療法学（運動器系）	○	
運動療法学（外傷性疾患）	○	
運動療法学（中枢神経系）	○	
日常生活活動演習（理学療法）	○	
物理療法学演習	○	

- ③ 大学、理学、作業：臨床実習・臨地実習における指導者の指導の下で対象者への支援を通して学修するスキルを身につけ実践できる。

	PT	OT
統計学	○	
理学療法学研究法	○	
作業療法学研究法		○
理学療法管理学	○	
評価実習（理学療法）	○	
身体障害領域評価実習（作業療法）		○
精神障害領域評価実習（作業療法）		○

- ④ 大学、理学、作業：生涯にわたり学修し自己研鑽するスキルを身につけ取り組むことできる。

	PT	OT
総合臨床実習（理学療法）	○	
身体障害領域総合臨床実習（作業療法）		○
精神障害領域総合臨床実習（作業療法）		○
地域理学療法実習	○	
地域作業療法実習		○
卒業研究（理学療法）	○	
卒業研究（作業療法）		○

看護学科 ディプロマ・ポリシー（DP）と科目の対応

—ディプロマ・ポリシー：到達度の評価基準—

1. 人についての幅広い知識と理解を持ち、生命を尊ぶことができる
  - ① 人と社会を理解し、幅広い側面から生命の価値を理解できる
  - ② 人と社会を理解し、幅広い側面から生命倫理について自己の考えを述べることができる
  - ③ 各専門の学問を発展させて統合し、対象者を尊重した生活支援ができる
  - ④ 対象者に尊厳をもって接し、対象者を尊重した看護実践ができる
2. 人を全人的に捉え、優しく寄り添うことができる
  - ① 人が病と対峙する過程の心理について推察し、援助を考えることができる
  - ② 臨地実習での体験を通し対象者に相応しい態度を取ることができる
  - ③ 人の身体的状態、心理的状态、社会的状態を理解し、生活を自立させるために必要な基礎的知識を説明できる
  - ④ 対象者の苦痛を理解し、対象者の状態にあわせた援助ができる
3. 多様な社会を理解し、看護専門職者として保健医療福祉活動に貢献することができる
  - ① ボランティア活動あるいはフィールド・ワークを通して様々な人と交流できる
  - ② 地域における施設の役割や機能を理解し、実現可能な役割を説明できる
  - ③ 保健医療福祉活動における看護専門職者として自己の目指す方向性を説明できる
  - ④ 社会の様々な場で保健医療福祉活動に貢献する実践力を身につける
4. 地域の保健医療福祉の現状を知り、看護専門職者の視点で課題を見出すことで支援の必要性を理解し、取り組むことができる
  - ① 保健・医療・福祉の現状を理解し、問題点を説明できる
  - ② 個人及び集団の疾病の要因となる生活・社会・環境因子について説明できる
  - ③ 日本の医療・福祉制度について国際的な視点から意義と課題を説明できる
  - ④ 看護専門職者として見出した課題を解決するための具体策を提案できる
5. 看護専門職者として社会に貢献できる協調性とコミュニケーション能力がある
  - ① 他者と良好なコミュニケーションを図ることができる
  - ② アサーティブなコミュニケーションを実践できる
  - ③ 他職種や対象者と良好なコミュニケーションを図ることができる
  - ④ 看護専門職者として他職種と連携するコミュニケーションがとれる
6. 看護専門職者として社会に貢献するために生涯にわたり学修し自己研鑽することができる
  - ① スタディスキル及びチューデントスキルを身につけ実践できる
  - ② 自己の看護実践を振り返り、自己洞察をすることができる
  - ③ 看護専門職者として生涯にわたり学修し自己研鑽する必要性を説明できる
  - ④ 看護専門職者として生涯にわたり学修し自己研鑽し続けるスキルを身につける



科目区分	授業科目の名称	DP1				DP2				DP3				DP4				DP5				DP6			
		①	②	③	④	①	②	③	④	①	②	③	④	①	②	③	④	①	②	③	④	①	②	③	④
健康生活と看護	成人看護学援助論Ⅰ(セルフケア)		○								○				○										
	成人看護学援助論Ⅱ(クリティカルケア)			○								○			○										
	成人看護学演習			○								○			○				○						
	成人看護学実習Ⅰ(セルフケア実習)		○					○							○				○				○		
	成人看護学実習Ⅱ(クリティカルケア実習)		○					○							○				○				○		
	老年看護学概論	○				○							○												
	老年看護学援助論		○								○				○										
	老年看護学演習			○			○								○										
	老年看護学実習Ⅰ(地域高齢者実習)							○			○				○					○					
	老年看護学実習Ⅱ(高齢者生活支援実習)							○			○				○					○			○		
	小児看護学概論	○				○							○								○				
	小児看護学援助論		○					○			○				○									○	
	小児看護学演習			○					○								○								
	小児看護学実習				○		○					○					○			○			○		
	母性看護学概論	○											○												
	母性看護学援助論		○			○																			
	母性看護学演習			○		○							○												
	母性看護学実習				○		○								○					○			○		
	地域生活と看護	精神看護学概論	○													○									
精神看護学援助論				○			○					○													
精神看護学演習								○									○								
精神看護学実習					○				○			○					○			○			○		
地域・在宅看護学概論		○									○				○										
地域生活看護学演習		○															○				○				
地域・在宅看護学援助論			○				○									○			○						
地域・在宅看護学演習								○			○					○				○					
地域・在宅看護学実習					○			○			○					○				○				○	
看護の学びの統合	家族看護学			○				○																	
	医療安全論							○				○													
	災害看護学											○									○				
	看護倫理学			○				○																○	
	看護管理学												○								○				
	看護教育学																								○
	チーム医療論											○	○								○				
	公衆衛生看護学概論							○								○									
	統合実習Ⅰ(ヘルスマネジメント実習)												○											○	
	統合実習Ⅱ(多職種連携実習)				○																○			○	
	看護研究概説																							○	
	看護研究																								○
	助産学	助産学概論 ※	○									○				○					○				
基礎助産学 ※			○			○																			
健康教育技法 ※				○							○					○				○					
助産診断・技術学概論					○			○				○				○									
助産診断・技術学Ⅰ(正常な経過)					○			○												○					
助産診断・技術学Ⅱ(異常な経過)					○			○													○				
助産診断・技術学演習			○						○							○				○					
地域母子保健学 ※									○			○				○				○					
助産管理学					○							○				○				○					
助産学実習					○				○			○				○				○				○	

専門分野